

公共施設と市民参画

ぎふメディアアコスモスの取り組み

浅野 健

ぎふメディアアコスモスの開館

ぎふメディアアコスモスが二〇一五年七月に開館してから半年が過ぎた。この施設は、岐阜市の中心市街地に建てられた図書館、市民活動交流センター等からなる複合施設で、世界的な建築家である伊東豊雄氏が設計したことでも知られている。隣地では岐阜市庁舎の建替えも検討されている注目のスポットである。

既にここを訪れてご存知の方も多いと思うが施設の特徴を簡単に紹介すると、九十万冊の蔵書を目標とし（開館時三十万冊）九百もの座席を配置してくつろぐことのできる図書館、イベントや打合せ、休憩などに使える市民交流スペース、県産材を利用し、光や風、地下水などの自然エネルギーを取り入れている。建物の正面から少し離れて眺めると、通り沿いの「せせらぎの並木」「テニテオ」（公募で付けられた名称）や背後に見える金華山の山並みと建物の屋根の曲線とが連続しているようにも見え、周りの景観に溶け込んでいる。オープン当初のような混雑は収まりつつあるが、いつ訪れても閉館の午後九時まで中高生が友達との会話や勉強に使っている光景は、設計者の伊東

氏が狙った通りであろう。業務で訪れることは多い私自身でも、わざわざ訪れたと思う施設である。

開館前から市民の機運醸成

この施設、開館の二年以上前から、伊東氏や市長が参加して市民フォーラムを開催し、隣接する並木道を一部整備し開通セレモニーをするなど、市民への周知に早くから取り組んできた。

市民の参画については、岐阜市出身のアーテリスト日比野克彦氏（東京藝術大学教授）を迎え、地元でまちづくりに関わる市民や伊東氏の事務所の若手スタッフが参加したワークショップにより施設全体の理念やコンセプトを決めた。さらに、ぎふメディアアコスモスの一機能である市民活動交流センターの活用を検討するため、岡崎市図書館交流プラザの運営をはじめ様々な市民参画の経験が豊富な三矢勝司氏（NPO法人岡崎まち育てセンター・りた）をコーディネーターに迎え、「てにておゼミ」が開催された。このゼミでは、開館に先駆けて二〇一四年十一月に施設の名前の一部にちなんだ「こすもつする」というイベントを市民が企

画し、ものづくり体験市場や市民ラジオなどを実施して経験を積んだ。

そして開館、運営へ

いよいよ開館まで半年を切った二〇一五年二月、日比野氏、三矢氏がアドバイザーとして参画するワークショップがスタートし、企画を検討して七月十八日から二十日までの三日間オープニングイベント「みんなの森のフム・ドキ・ワイ」と、十一月二十三日の秋のイベント「メディアコスまつりフム・ドキ・ワイ」が行われた。オープニングイベントでは十数回のプログラム、秋のイベントでは二十のプログラムが屋内外の様々なスペースを使って展開された。この一連の流れから、市民ラジオ「てにておラジオ」、館内ツアー「メディアコスアドベンチャー」、facebook 等で情報発信する「メディアコス編集部」などのプログラムが生まれ、継続的に事業が行われている。

この二つのイベントでは建物内部と建物周囲の空間を最大限に利用して賑わいを生み出しており、改めて良い建築や空間を造ることの大切さを実感できる。ワークショップ中にも出てきた言葉だが「岐阜市民への贈り物」にふさわしい公共施設だと思う。そして、公共施設を使って新たに交流を生み出そうと事業を企画する市民がいる。メディアアコスモスを拠点とした交流・まちづくりへの広がり期待され、今後も注目していきたい施設である。



登録文化財ナビ

登録有形文化財を巡る楽しみ

石田 富男

愛知登文会で登録有形文化財巡りを誘導するスマホアプリを制作した。今のところ愛知県のものだけだが、都道府県単位で登録活用できる仕様となっている。他県等でもこのアプリが活用されることを期待したい。

登録文化財の魅力

愛知登文会の活動で愛知県内の様々な登録有形文化財を訪ねることができた。改めて県内の登録有形文化財をみてみると非常にバラエティに富んだ様々なタイプの登録有形文化財があることに気がつく。元の用途が住宅というものが最も多いが、その住宅も町家から武家屋敷風、農家住宅、近代和風、和洋折衷など様々だ。次いで多いのが神社、寺、教会などの宗教施設。その他、産業施設、学校、商業業務施設、公共施設など多種多様な。移築されたものが多いのも目につく。

保存のために移築された明治村のようなもの以外にも良質な建物を有効に活用しようという観点から移築し、さらに別の用途に利用されている例も多い。建中寺徳興殿は、名古屋商業会議所本館が手狭となり取り壊すことになった際に建中寺が買取り、大庫裏として活用されている。移築によって名古屋市内街地に建つ最大級の木造建築が残ることになったわけであり、このような歴史を知るとその建物に対する愛着がわく。

アプリを使った楽しみ方

「登録文化財ナビ」では文化財名称やエリア、種別などで検索できるほか、テーマ（カテゴリ）によって検索もできる。

「著名建築家」「転用事例」「ロケ地」などがあり、全く異なる登録有形文化財に意外な共通点があることを知ることができる。スタンプ機能は現地を訪ねた記録となり、集める楽しみにもなる。アプリを使って登録有形文化財を巡ることでその魅力を知ってほしい。

「現地でのみ写真撮影したものをスタンプとして保存できます。」

「現地でのみお宝情報も見ることができます。」

「エリア(市町村)種別(建物用途)テーマ(カテゴリ)から検索できます。」

「mapアプリと連携し、現在地から文化財までのルートが検索できます。」

※App Storeで「登録文化財ナビ」と検索し、ダウンロードしてお使いください。iphone版のみ